

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 3月 19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467480017
法人名	有限会社ファースト・ケア
事業所名	グループホームいこい
所在地	鹿児島県出水市高尾野町大久保1432-1 (電話) 0996-82-5537
自己評価作成日	令和5年2月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームいこいでは、自宅で生活されていたリズムを崩さぬよう自分らしく生活出来るように、できる限り本人の希望に添い支援を行い、利用者様が笑顔で暮らしていけるよう職員は楽しい雰囲気造りに努めます。

・ホーム庭には、桜の木やアジサイ、梅の木、みかんの木があり、花見や日向ぼっこ、外での食事を楽しんでいます。

・中庭には季節の花を植えたり、畑を作り旬の野菜を収穫し、料理の材料にし提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路から中に入り、周囲は住宅や畑等が混在した閑静な地域であり、蜜柑・梅・すもも等が植樹され、ホームの裏手には肥薩おれんじ鉄道が走っている。棟続きの同法人のデイサービスは現在休止中であり、運動会やレクリエーション等の際にホールを活用している。

「いつまでも こうして いたい いこいのば」をテーマに設立されたホームは、人間性を尊重し、公平・平等な介護を行うという法人理念と、利用者のペースで地域の一人としての架け橋になれるよう支援したいというホームのケア理念を掲げ、職員はこの理念を日々意識しながらケアの実践に繋げている。人格の尊重やプライバシーの確保については、個人情報・プライバシー保護・高齢者虐待・権利擁護等の研修を実施し、言葉は敬語で話し、その人に合った声かけやトーン、排泄時や居室のプライバシー確保等にも十分配慮して支援している。職員は家庭の延長である生活の場として利用者一人ひとりに向き合い、できることを引き出して増やすことをケア目標として支援に努めている。

コロナ禍にあって日常的な外出や家族との面会等が制限されているが、家族との面会は県内在住者に限り、3月から日曜日のみ予約制で15分間できるようになり、遠方の家族とはLINEのビデオ通話で話している。市内のドライブも少しずつ機会が増えつつあり、管理者は利用者の希望や職員配置・ケアの状況等と向き合いながらではあるが、利用者の要望に沿った支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念とケア理念があり、食堂・休憩室に掲示してあり職員はそれぞれの利用者に応じて理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	法人とホームの理念は毎日目に付く場所に掲示し、ケア目標を2年ごとに設定して、職員は意識して振り返りながらケアの実践に繋げている。毎月のミーティングや勉強会の中で理念を共有し、職員全員での評価も6か月毎に実施されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防の為、近隣との交流は中止しているが、年1回の地域の清掃作業には、感染予防対策をし職員が参加している。	自治会には入っていないが、自治会長や民生委員の来訪や年1回の地域の清掃への職員参加している。近隣や家族からの野菜や古新聞紙の差し入れもある。3月毎の訪問美容等を通して、地域に溶け込んだ暮らしを目指した支援に努めている。3月末には地域の春の市が開催されるので、利用者を連れていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	実習生やボランティアの受け入れは新型コロナウイルスが終息していない為、実施していない。地域の清掃作業等、感染予防対策をした上で職員のみ参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を開催し、自治会長、市担当者、社会福祉協議会職員、ご家族様、施設代表者にも参加してもらい、利用者状況、ヒヤリハット、事故報告、活動状況を報告し意見交換を行っている。コロナ感染予防のため利用者は参加できていない。	会議は2月毎に開催しており、活動状況・入居者情報・ヒヤリハット等の報告を行い、ホームでの生活の様子や介護保険制度についてなど、活発な意見交換が行われている。現在家族会は活動休止しているが、全家族と会議の内容を情報交換して理解を深め、サービスの向上に繋げていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回の運営推進会議への参加、市役所、社会福祉協議会職員の方へ参加してもらい、意見交換、相談など行っている。何かあればそのつど市役所へ連絡し相談できる関係性にある。	市の担当者とは電話・メール・窓口等で提出物や諸手続きを中心に情報交換したり、日常的に連携を深めている。市やグループホーム協議会等の研修会を受講していない職員には受講を促している。地域包括支援センター主催の認知症カフェの案内を頂くが、参加できる利用者は少ない状況である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が主となり、指針をもとに勉強会を行いミーティングでも話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。持続できるように職員ロッカールームなどに張り出している。	「身体拘束等適正化のための指針」を作成しており、職員はミーティングや3か月毎に開催される身体拘束適正化委員会、年2回の研修、「介護職基本姿勢10則」等を通して意識付けを図っている。利用者にとって待ち時間には待ち時間を伝え、日中の施錠は行わず見守りや寄り添い・対話に努めることで安定を図り、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会や勉強会で学ぶ機会を設けている。月1回のミーティングでも話し合い虐待が見過ごされる事がないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解できるよう勉強会を計画し、個々の必要性を関係者と話し合い、必要である場合は支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族が分かるよう納得いくまで説明し、契約を交わしている。契約後でも電話や面会時に契約内容についてや、その他質問があれば分かるように回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症予防の為、年1回の家族会は行われていませんが、来所時や、電話、メールなど活用する事で、意見を伺い運営に反映できるように努めている。	意見や要望については、利用者からは日頃の会話・表情等を通して、家族からはリモート・予約制で日曜日のみ可能な面会や電話・タブレットでのライン交換等を通して把握するように努めている。家族へはホーム便りと一緒に写真を同封したり、電話で利用者の近況を伝えるなど、工夫してお互いの信頼関係を構築している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で運営に関しても意見交換できるようにしている。個別での相談もいつでもできるよう管理者は体制づくりをしている。施設内に統括があり、相談もしている。	管理者は、日頃から職員の相談等には気軽に耳を傾け、協力的な姿勢で対応しており、得られた意見や提案等は職員間で協議して運営やサービスの改善に繋げている。職員同士の勤務交代も可能であり、介護職員実践者研修の受講を勧めたり、研修会出席は勤務として取り扱うなど、資質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者から職員個々の努力や勤務状況を把握できるよう聞き取りを行っている。代表者にいつでも相談でき、職場環境の改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を全職員で立て、月1回全職員での勉強会を行っている。月担当者が主となり司会進行も行っている。各委員会も2、3ヶ月に1回開催し参加できる職員は参加している。月1回のミーティングでもケアについて話し合っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加盟している。コロナ禍の影響で以前よりは減ったが、電話やリモートなど行い意見交換しサービスの質の向上の取り組みを行っている。定期的な管理者会議にも参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の生活状況を知る為に、事前に病院や自宅訪問。ケアマネージャーからの情報提供書など確認し安心して生活を送っていただく為に、ご本人やご家族に伺い、以前の生活を切り離す事なく、これまでの生活が出来るように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が困っている事や、要望などに耳を傾け解決に向けて一緒に取り組んでいく中で、ご本人様と共に関係性を築けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者様や、ご家族が必要としている支援を見極め、その方に合った提案を他のサービス機関と連携し、安心して利用できるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事など利用者の能力に合わせて、声かけ、見守りを行いながら共に行うことで、お互いに支え合う関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族との面会がなかなか出来ない為、毎月のお便りで、行事や生活の様子などの写真を個々に作成し、ご家族に送付している。また、電話時など本人の様子を報告し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で面会が制限されている中、電話や手紙、オンライン面会等使用して、馴染みの方々との関係が途切れないよう支援に努めている。	家族との面会は、県内在住者に限り3月から日曜日のみ予約制で15分間できるようになり、遠方の家族とはLINEのビデオ通話で話している。電話の取り次ぎや年賀状等の返事を一緒に書くこともあり、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、居室や食席の場所も考え、利用者様同士が良い関係が続くように、職員が常に情報交換を行い、利用者同士の関係性が築きやすくなるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活する場所が変わっても気軽に家族からの相談を受ける関係性を大切にしている。ご家族への電話やお便りで状態を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を会話や表情、しぐさから把握し、訴えの困難な入居者様には、本人の立場に立ち支援している。把握した内容は申し送りノートを活用し職員間で共有している。	利用者の思いや意向は日頃の会話・表情・仕草等で把握し、うまく伝えられない利用者の場合は、家族の意向も大切にしながら聴取している。入居前からの趣味やできていたことを継続している利用者もあり、個別的な支援を意向に沿って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの生活歴や、入居前の暮らしぶりの他、介護サービスを利用していた場合には、本人、家族の同意を得て、担当ケアマネジャーや介護サービス事業所からの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態など、毎日ケア記録や申し送り、またはミーティングなどを通して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様に希望を聞き取りケアを行っていく中で、本人がより良く暮らす為の課題やケアのあり方をミーティングで話し合い、主治医からの助言もいただき介護計画に活かせるよう努めている。	利用者及び家族の思いや意向を尊重し、担当職員・協力医療機関の医師や看護師からのアドバイスを受け、ケース記録や申し送り等の情報を基に職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを行い、計画は6か月毎に見直して年1回更新しているが、状態変化や入退院等の際には関係機関と連携を図り、随時見直して再作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々のケア記録に、日中、夜間の様子、本人の言葉、状態の変化など記録している。新入居者はさらに詳しく記載するケア記録があり、全職員が情報を共有するようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>一人一人の個性や特徴を理解し、必要に応じて病院受診や外出等、状況に合わせた支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源について把握するよう努めており、本人が持っている能力を発揮しながら、豊かな暮らしができるよう支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族と話し合い、希望される医療を受けられるように、主治医と連絡を取り合い受診や訪問診療など適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関を主治医としている利用者は月1回の往診を受け、利用者及び家族の希望する主治医を受診する場合は、家族が同行して受診結果を報告してもらっている。夜間は主治医から電話による指示をもらい、ホームのケアマネージャーが看護師資格を有するなど、医療連携の体制が構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	資格を有する職員と情報共有し、助言を得て健康管理に努めている。各かかりつけ病院の看護師へ報告、相談し受診を行うこともある。訪問看護利用時は相談し助言を得ている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時、利用者の日常生活状況や、入院に至った経過を情報提供書として提出している。主に地域医療連携室の相談員を通じ連絡をとり、退院に向けて情報交換を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入院時、方針について説明し、同意書に記入してもらっている。状態変化や悪化した時、介護更新時期に意向の確認をし、話し合うようにしている。	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」「意志確認書」について説明し、同意を得ている。現在看取りは行わない方針であるが、グループホーム協議会主催の看取りの研修では看取りを勧められており、また長期入居者で終末期を迎えている利用者では、ホームで最期まで看取ってほしいという希望も聞かれている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時の対応マニュアルを備えている。定期的に対応方法の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、火災や地震を想定した避難訓練を消防署指導のもと行っている。災害時に備えて、日用品、水や食料等を備蓄し定期的に確認をし、マニュアルを作成している。</p>	<p>「非常災害対策計画」「自然災害発生時の業務計画ガイドライン」を整備し、消防署立ち会いの下で火災・風水害・洪水・地震・津波・川内原発等に対して夜間想定避難訓練を年1回、自主訓練を年1回実施している。自動通報装置には役職者の電話番号が登録され、消火器の点検や避難経路の確認等も行って、防災への意識を共有している。食品等の備蓄は3日分程度あり、チェックリストにより担当者が確認している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの言葉を尊重し、声かけや対応に気をつけている。毎月の職員ミーティングでケアの振り返りなど行い、意見交換を行っている。	「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成して年1回、年度初めに研修を実施して理解を深めている。言葉は敬語で話し、その人に合った声かけやトーン、排泄時や居室のプライバシー確保等にも十分配慮して、利用者の尊厳やプライドを損ねることがないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでは意思表示ができない場合があっても、表情や全身での反応をキャッチして、本人の希望や思いを組み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを理解し、その人のペースを大切に、希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人様にできるだけその日の洋服は選んで頂き、外出時は、帽子や靴なども選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、味見、調理など参加して頂いている。誕生日や行事の時は特別な献立にして、調理に参加して頂き、食事が楽しみなものになるように、支援している。	利用者の希望を取り入れて、冷蔵庫にある食材で利用者と一緒にできることを支援しながら調理している。旬の野菜や差し入れも活用し、行事食・手作りおやつや、弁当持参の花見・月1回のテイクアウト等、食事が楽しみとなるように工夫し、職員も一緒に食べている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を個別に記録し、疾患や嚥下状態を把握した上で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施、必要な方については物品の準備や介助を行い、自力で行える方は見守り、適切に行えるよう支援している。義歯使用者は就寝前、義歯洗浄剤使用している。必要な方は歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄委員会を設けている。24時間の排泄チェックを行い、排泄パターンを確認し利用者に応じた声かけ、誘導を行い、排泄のリズムを確立できるような自立支援を行っている。個々に合ったおむつの検討をし、使用している。	ケア記録の排泄チェック表で利用者毎にパターンを把握し、利用者に応じたおむつ類を工夫しながら、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。便秘の予防に野菜類を多めに摂取したり、オンライン動画での高齢者体操等を行って改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、個々の便秘の原因を探り、水分補給、献立の配慮、腹部マッサージ、適度な運動を実施している。必要時は主治医へ相談し服薬等で便秘の予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴実施。個人の希望に添えるよう考慮し、午前・午後で声かけ行い支援行っている。	利用者の希望や必要性に応じて週3回の入浴を基本としているが、体調等に合わせてシャワー浴や足浴等、柔軟に対応している。石鹸等は好みの物を使用でき、入浴剤も使用して、入浴後はスポーツドリンクの飲用や保湿に心がけるなど、入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の睡眠状態を把握し、スタッフ間で共有し、起床の声かけ等、個人に合わせている。いつでも好む場所で休憩できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の処方箋のファイルを作成し、変更時などはすぐに確認できるようにしている。服薬前には、スタッフ2名以上で二重チェックし服薬管理表をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事において利用者様の知恵や経験を発揮できる場面を作れるよう努めている。ドライブや誕生会、行事等楽しみを共有して気分転換が図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、利用者の体調や天候、感染症に注意し、ドライブを多く取り入れている。	コロナ禍も長期化し、利用者の心身の状態や天候を考慮しながら、敷地内の散歩・園庭での日光浴・菜園での収穫・機会が増やし、市内のドライブ等、できるだけ外出できるように支援している。利用者職員間でよく会話して雰囲気が盛り上がることによりストレスが発散され、リフレッシュが図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金管理は、ご本人・ご家族と相談し、管理が難しい方は施設にて管理し、利用者様の能力に応じた支援を行っている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話はいつでも受け付けており、希望時は特別な事情がない限り、いつでも対応している。面会制限中はタブレットを使用し、zoomでの面会を実施している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	玄関・廊下・食堂等、季節感を取り入れ、飾り付けを行い居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	事務室と廊下の一部には天窓が設置され、リビングは明るく、カレンダー・折り紙・行事の貼り紙・写真・利用者の作品等が飾られ、利用者は好みの場所で家庭的な雰囲気を感じながら過ごしている。空気清浄機や加湿器も置かれ、「コロナ対策リスト」により換気や消毒時間のチェック等が行われ、衛生管理に配慮している。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	居室は個室になっており、希望時は自由に模様替えし一人ひとり自由に使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物や好みの物を持参して頂き、ご本人様が居心地よく安心して過ごせるよう居室の環境づくりをしている。</p>	<p>居室入口には花の名前が記され、全て洋室の腰高窓仕様となっている。居室にはエアコン・ベッド・タンス内蔵のクローゼット・テーブル・椅子等が備えられている。利用者は写真・テレビ・遺影・仏壇等をはじめ、枕等の寝具類・茶碗・箸・コップ等、身近な馴染みの物を自由に持ち込み、本人のペースで居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者様の状態に合わせて家具やベッドの配置を考え、安心して生活が送れるよう支援している。利用者様の状態に応じ福祉用具を取り入れている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない